

# 紙本墨書「費錫章書」保存修復報告書

幸喜淳<sup>\*1</sup> 久場まゆみ<sup>\*2</sup> 當間巧<sup>\*3</sup>

## I. はじめに

本作品は（一般財団法人）沖縄美ら島財団所蔵の「費錫章書」である。修復前の作品は折れ、折れ山の擦れ、糊浮き、欠失損傷が著しかった為、平成27年7月24日から平成28年3月14日、石川堂で修復を行った。今回の修復では本紙の折れ、欠失箇所の修復後、再び掛幅装に再装丁した。

なお、本作業は監督職員を久場まゆみ、主任監督を幸喜淳とし、本紙修復、軸表装作業ならびに本報告書の作成は當間巧が行った。

## II. 作品の形状及び寸法

修復前後の法量は以下の通りです。

### 1. 本紙

①基底材 紙

②寸法 修復前 丈 90.9 cm 幅 35.3 cm

修復後 丈 91.1 cm 幅 35.1 cm

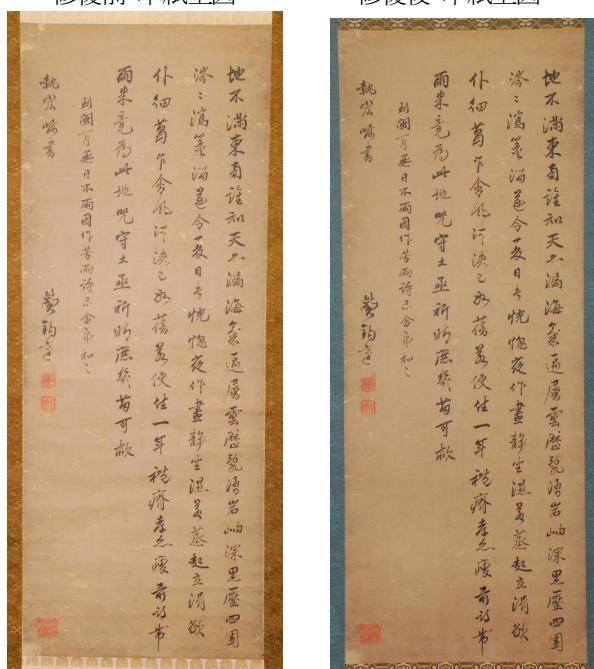
③本紙枚数 1枚

修復前 本紙全図

④画材 墨・膠

修復後 本紙全図

⑤本紙の特徴 繰ぎの無い1枚の料紙

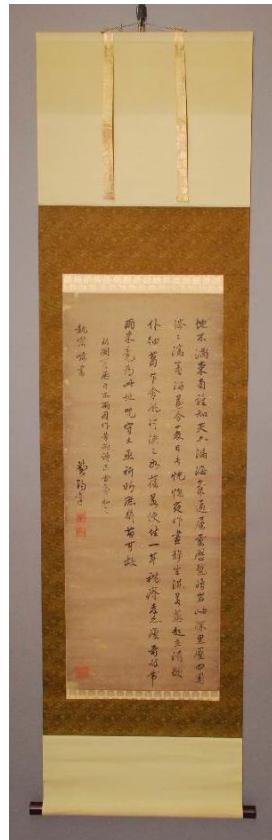


\* 1 一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係長

\* 2 一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係 主任

\* 3 石川堂 代表

修復前 表具全図

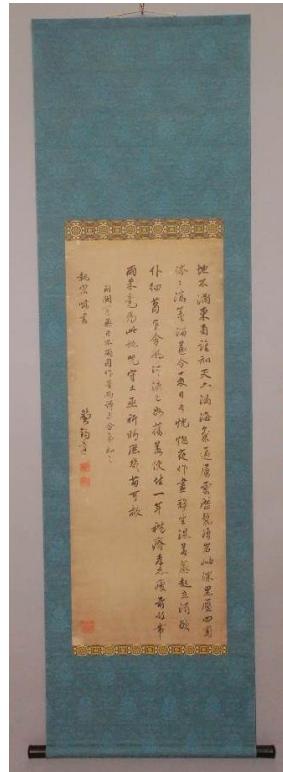


## 2. 装丁

修復前

- ①装丁 掛幅装
- ②表具寸法 丈 175.7 cm 幅 46.2 cm
- ③表装形式 三段表具
- ④裏打ち紙 3層  
肌裏紙・楮紙  
増裏紙・楮紙  
総裏紙・楮紙
- ⑤表装裂 一文字・白地花飛文金欄  
中廻し・茶地花唐草宝尽文緞子  
上 下・薄茶地魚子
- ⑥軸首 塗り頭切軸
- ⑦収納箱 紙被箱

修復後 表具全図

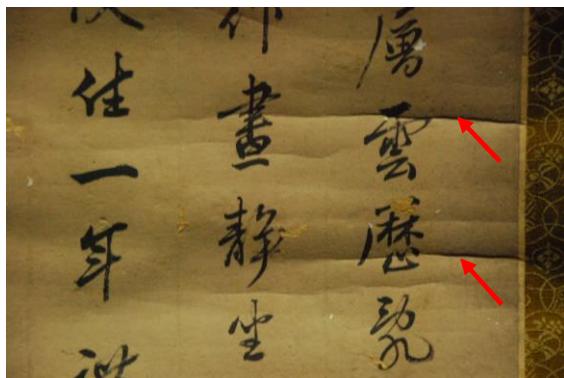


修復後

- ①装丁 掛幅装
- ②表具寸法 丈 163.1 cm 幅 47.2 cm
- ③表装形式 袋表具
- ④裏打ち紙 3層  
肌裏紙・楮紙（新調）  
増裏紙・美栖紙（新調）  
総裏紙・宇陀紙（新調）
- ⑤表装裂 一文字・紺地蜀江文緞子（新調）  
上下柱・藍地瓢箪唐草文様綾（新調）
- ⑥軸首 黒檀長撥軸（新調）
- ⑦収納箱 桐太巻添軸桐印籠箱（新調）

### III. 修復前の損傷状況

1. 本紙には強い横折れが生じていた。



修復前 本紙下部 強い折れが確認できる。

2. 本紙に欠失箇所、糊浮きが見られた。

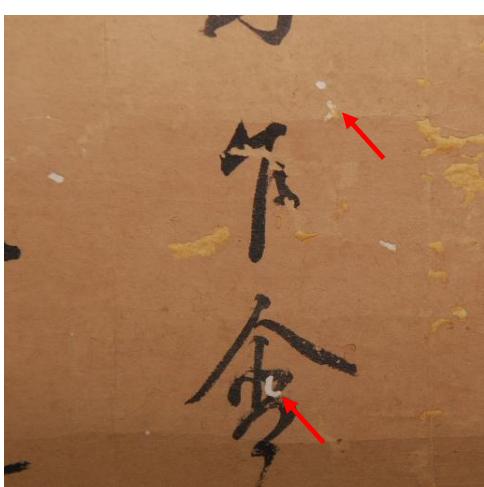


修復前 本紙上部 欠失箇所



修復前 本紙中央部 糊浮き箇所

3. 過去の修理で補修（繕い）作業が施されていない箇所、不具合な補修箇所が確認できた。



修復前 本紙上部



修復前 本紙左下部 不具合な補修箇所

#### IV. 修復方針及び概要

1. 実施の作業及び方針の決定・変更等は、首里城公園管理部の本件担当者と協議・監督の下進める。

2. 墨・朱印の剥落止めを行う。

墨の状態を調査した結果、墨文字の状態は良好であった。剥落止めによる過度な膠投与は、墨又は料紙の硬化を招く結果となる為、今回の修復では剥落止めは行わない事とした。

3. 汚れの除去作業を行う。

本紙全体を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去した。

4. 本紙の欠失、破損箇所に適する補修紙で繕いを施す。

補修紙は、高知県立紙産業技術センターの本紙纖維組成試験結果を基に「雁皮紙」を選定した、使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。

5. 本紙の折れが生じている箇所、及び今後明らかに生ずると思われる箇所に、伝統的な修理方法である折伏せを入れる。

6. 表装裂を新調する。

新調する表装裂に関しては、首里城公園管理部の本件担当者と協議し下記の表装裂を選定した。

一文字・紺地蜀江文緞子 総縁・藍地瓢箪唐草文様綾

7. 軸首、環、八双、軸木、掛け紐等を新調する。

8. 桐太巻添軸桐印籠箱、白絹袱紗を新調する。

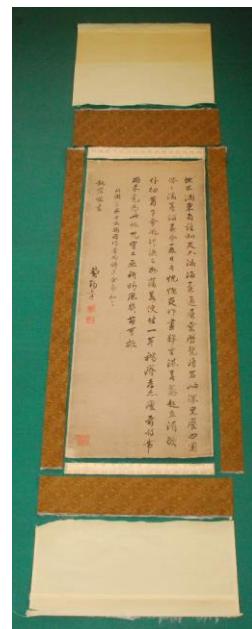
収納保存にあたっては太巻添軸に添えて巻き、折れ破損の要因を軽減した。

#### V. 修復工程

1. 修復前に写真撮影を行い、本紙の状態を調査した。

2. 裏打ち紙を除去し表具装を解体した。

右：修復中 解体作業後写真



3. 濾過水を用い本紙表面に表打ちを施し旧裏打ち紙、旧繕い紙を捲り取った。



修復中 裏打ち紙除去作業



修復中 旧繕い紙の除去作業

4. 本紙汚れの除去を試みた、作業は本紙を傷ない範囲にとどめた。

5. 本紙の欠失、欠損箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、同質の雁皮紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復中 本紙補修作業

6. 新糊を用い、美濃紙（長谷川紙）で本紙の肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。

糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



右：修復中 本紙の肌裏打ち作業

7. 新調した表装裂に新糊を用い美濃紙（長谷川紙）で肌裏を打った。

右：修復中 表装裂の肌裏打ち作業



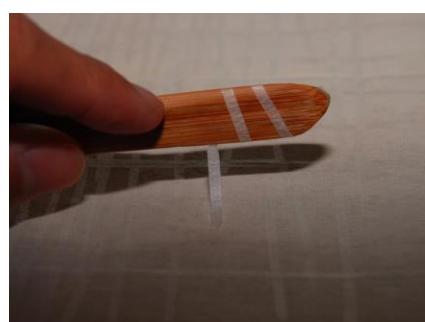
8. 本紙、表装裂に美栖紙を使用し増裏を打った。  
糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。

右：修復中 本紙の増裏打ち作業



9. 本紙の横折れが生じている箇所、今後明らかに生ずると思われる箇所に折れ伏せを施した。  
折れ伏せ紙は美濃紙（長谷川紙）用い、糊は新糊を使用した。

右：修復中 折れ伏せ入れ作業



10. 本紙と表装裂を「袋表具」付け廻した。

右：修復中 付回し作業



11. 古糊を用い宇陀紙で総裏を打った。裏打ち後、仮張りを施した。



右：修復中 総裏打ち作業

12. 補修（繕い）を施した箇所のみ補彩を施した。



右：修復中 仕上げ作業

15. 桐太巻添軸桐印籠箱を新調し、紙帙を製作後、表具を白絹袱紗に包み印籠箱に収納した。

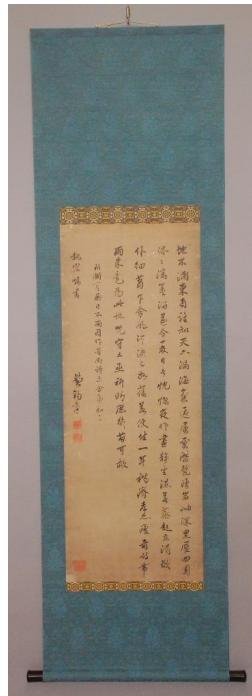


右:桐太巻添軸桐印籠箱

16. 修復後の写真撮影・報告書を作成した。

## VI. 修復前後の状態

### 1. 表装裂



修復前は上下に薄茶地魚子、中廻しに茶地花唐草宝尽文緞子、一文字には白地花飛文金欄を配した三段表具に仕立てられていた。

修復後は上下・柱に藍地瓢箪唐草文様綾、一文字には紺地蜀江文緞子を新調し袋表具に仕立てた。上下・柱に使用した裂地はデルクス科学染料を用いて染色した。



修復前 上・中廻し・一文字



修復後 上・一文字の様子

### 2. 軸首

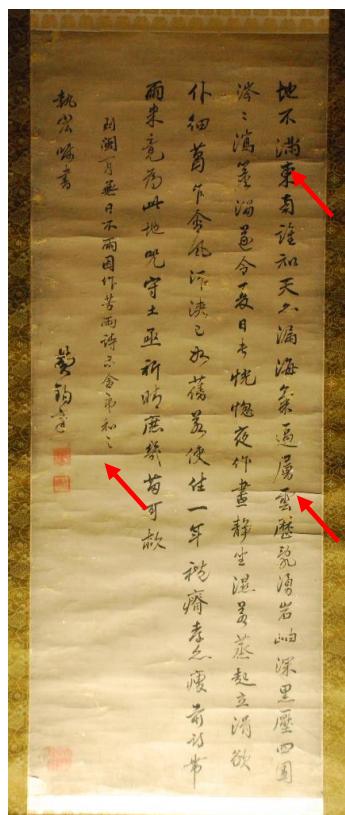
修復後の軸首は、首里城公園管理部の本件担当者との協議、全体との調和を考慮した結果、「黒檀長撥軸」中国産を使用した。

右：新調した黒檀長撥軸



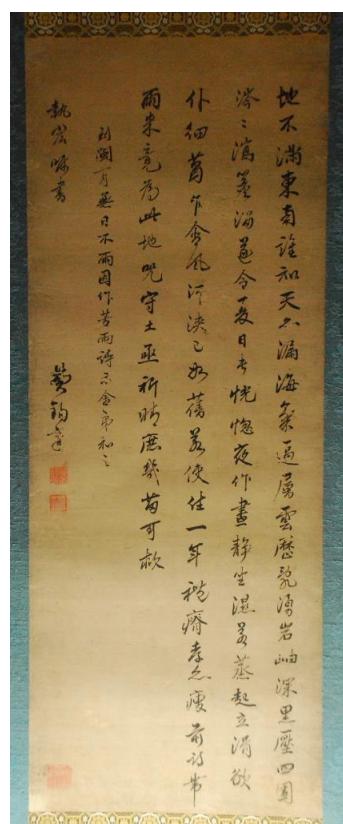
### 3. 本紙の折れ

斜光線を照射して、修復前後の状態を比較する。



修復前

強い折れが確認できる



修復後

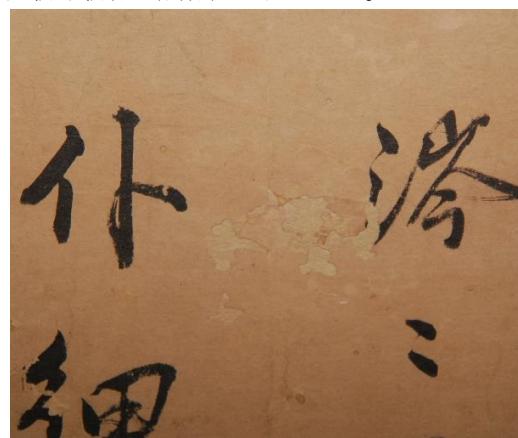
折れが取まり平滑な本紙面

### 4. 本紙の欠失箇所

本紙欠失箇所に補修（繕い）を施した。高知県立紙産業技術センターの本紙纖維組成試験結果を基に「雁皮紙」を選定した、使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復前 本紙上部 欠失箇所



修復後 本紙上部 欠失箇所



修復前 本紙中央部 欠失糊浮き箇所

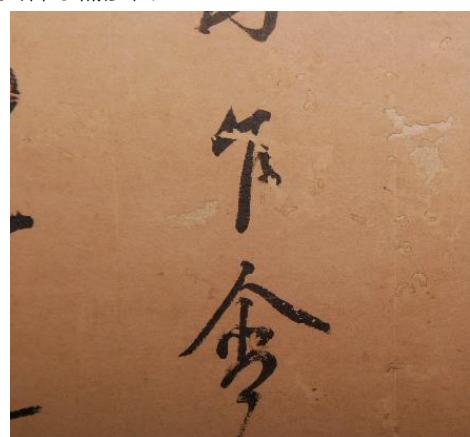


修復後 本紙中央部 欠失糊浮き箇所

5. 過去の修理で補修が施されていない箇所、不具合な補修紙



修復前 本紙上部 欠失箇所  
補修紙が施されていない為、  
白色の裏打ち紙が露出している。



修復後 本紙上部 欠失箇所



修復前 本紙左下部  
不具合な補修紙



修復後 本紙左下部

## VII. 作品の技術分析

高知県立紙産業技術センターに依頼し、本紙の纖維組成試験（JIS P 8120）を行った。

詳細は以下の通りである。

### 1. 本紙の纖維分析

試験の結果「雁皮」の纖維であると確認された。

また、填料「土」入りであるとの回答を得た。

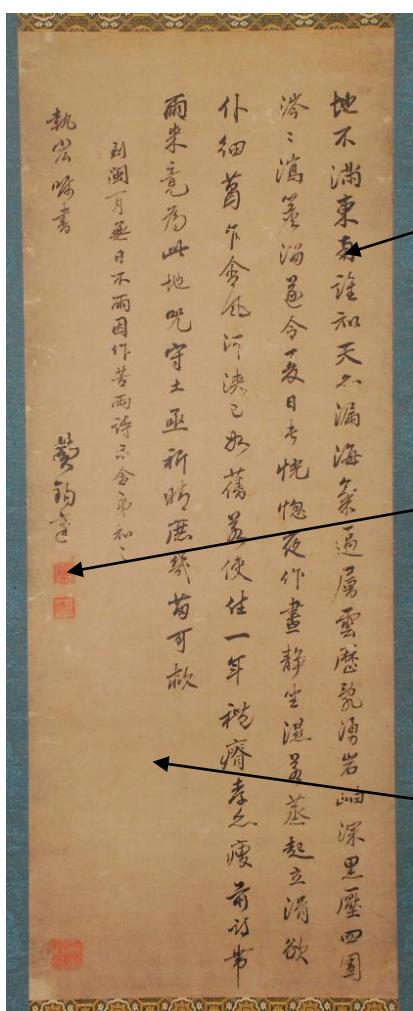
(別添 成績報告書 参照)



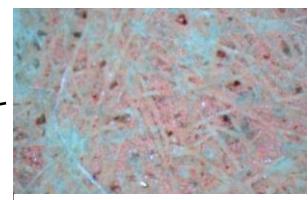
(高知県立紙産業技術センター撮影)

### 2. 本紙の顕微鏡撮影

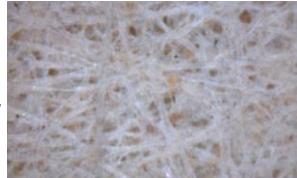
本紙の顕微鏡撮影を行った。撮影は修復後、本紙の安定した状態で実施した。



墨書 黒



朱印 朱



本紙料紙

## VIII. 修復諸資材

### 1. 接着剤

①新糊（中村糊店・京都府京都市下京区）

原材料は小麦粉澱粉。水によく沈殿させ煮出した後、糊化したものを使用する。  
肌裏打ち・折れ伏せ入れ等各所に使用。



②古糊

原材料は小麦粉澱粉。新糊を瓶に入れ5年程鍾乳洞にて保存したものを使用した。新糊に比べ接着力は劣るが、柔軟性を与え保つ事が出来る。「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し裏打ちを行う。  
増裏打ち・総裏打ちに使用。



### 2. 染料

天然染料 矢車（中村長商店・京都府京都市中京区）

原材料はカバノキ科ハシノ木属夜叉五倍子の果実。

果実を水で煮出した後の染料溶液を使用する。

本紙肌裏紙、補修紙の染色に使用。



### 3. 紙

①美濃紙 長谷川紙（長谷川和紙工房・岐阜県美濃市）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靭で長期の保存に耐える。  
本紙、表装裂の肌裏紙・折れ伏せ紙に使用。

②美栖紙 白雪（昆布尊男製・奈良県吉野郡吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。紙漉きの際、古粉（炭酸カルシウム）を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用する。増裏紙に使用。

③宇陀紙 福虎（福西弘行製・奈良県吉野郡吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。国内産楮を使用し、地元特産の「白土」を混入し伝統的製法で漉かれた表具用手漉き和紙、強靭で長期の保存に耐える。美栖紙に比べやや厚いが、風合い・質感共に軟らかさがある。古糊と合わせて使用する。

総裏紙、上巻き絹の裏打ち紙に使用。

## IX. 作業期間

自・平成27年7月24日

至・平成28年3月14日

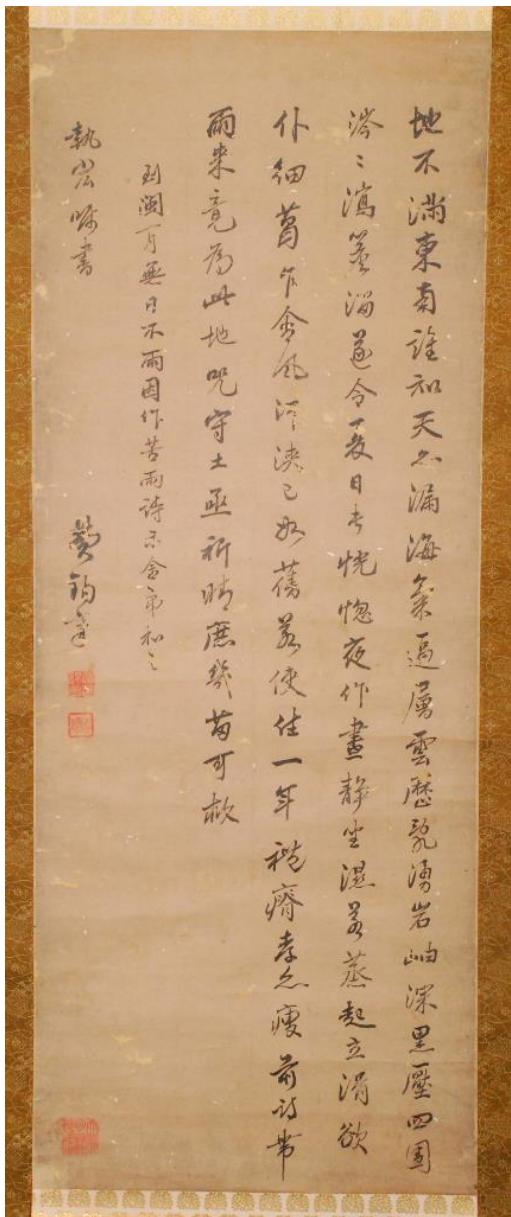
X. 作業場所

沖縄県うるま市石川 2738-11-2F

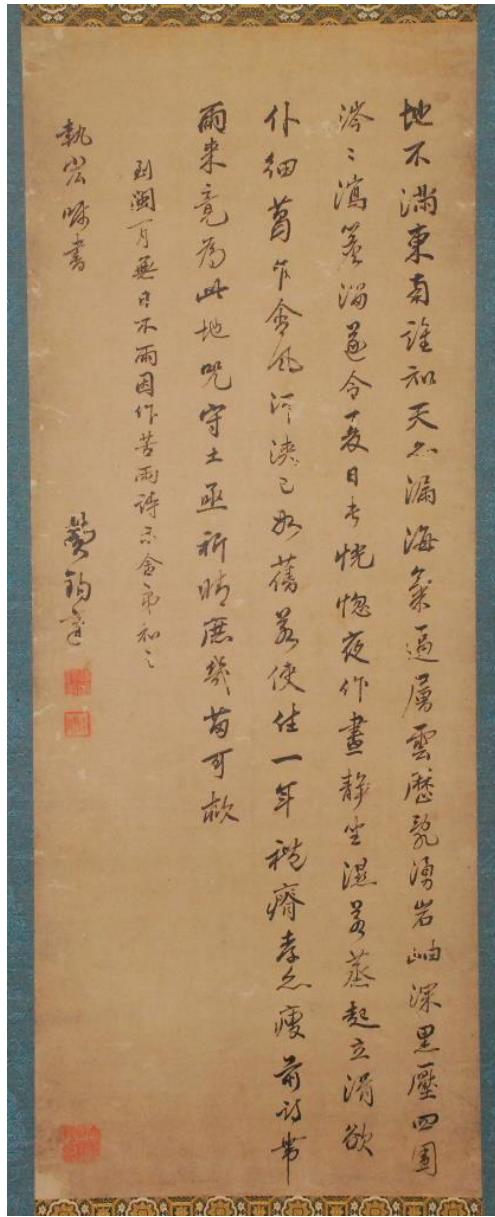
石川堂 當間巧

XI. 修復写真

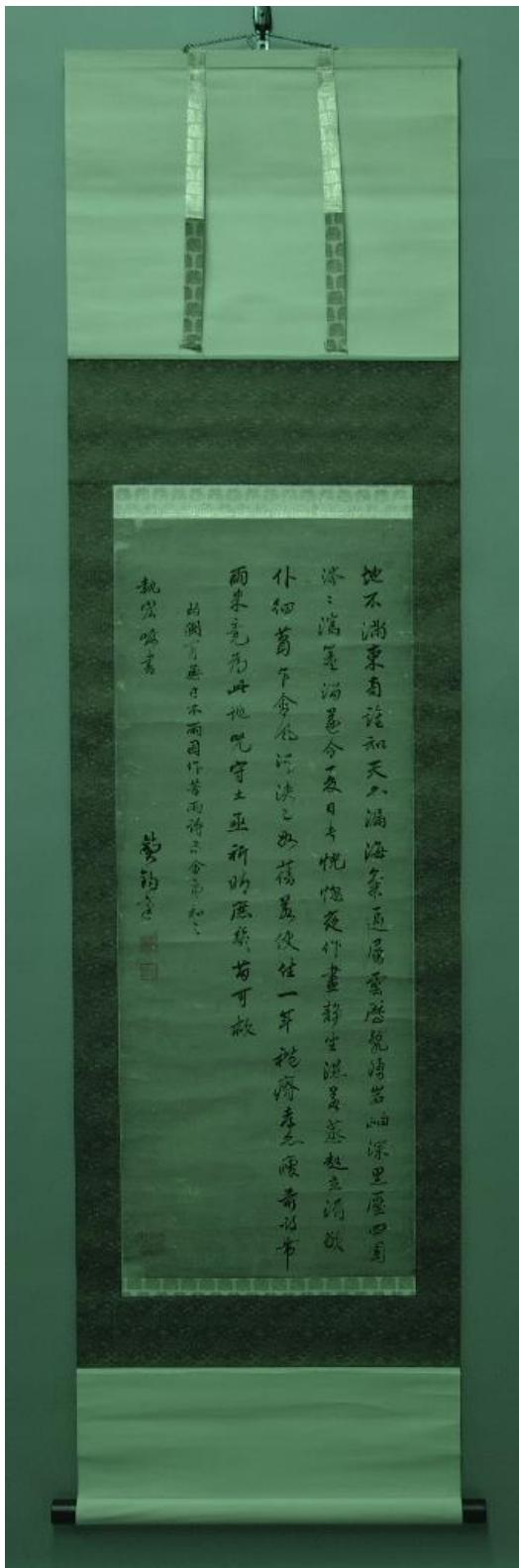
修復前 本紙全図



修復後 本紙全図

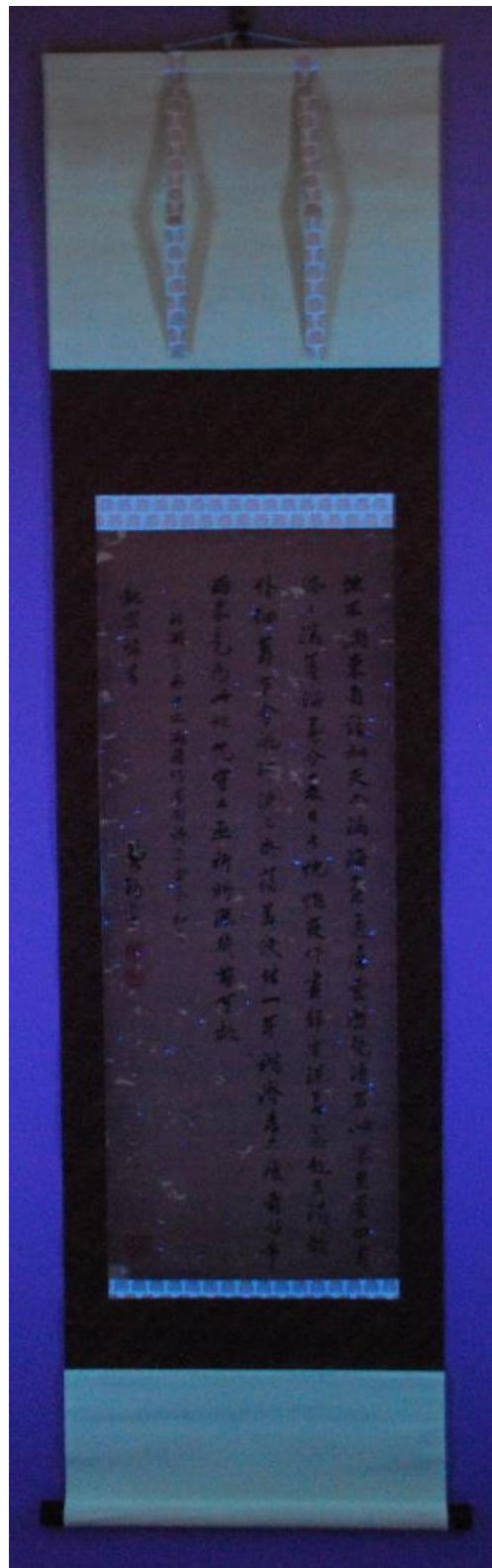


赤外線写真



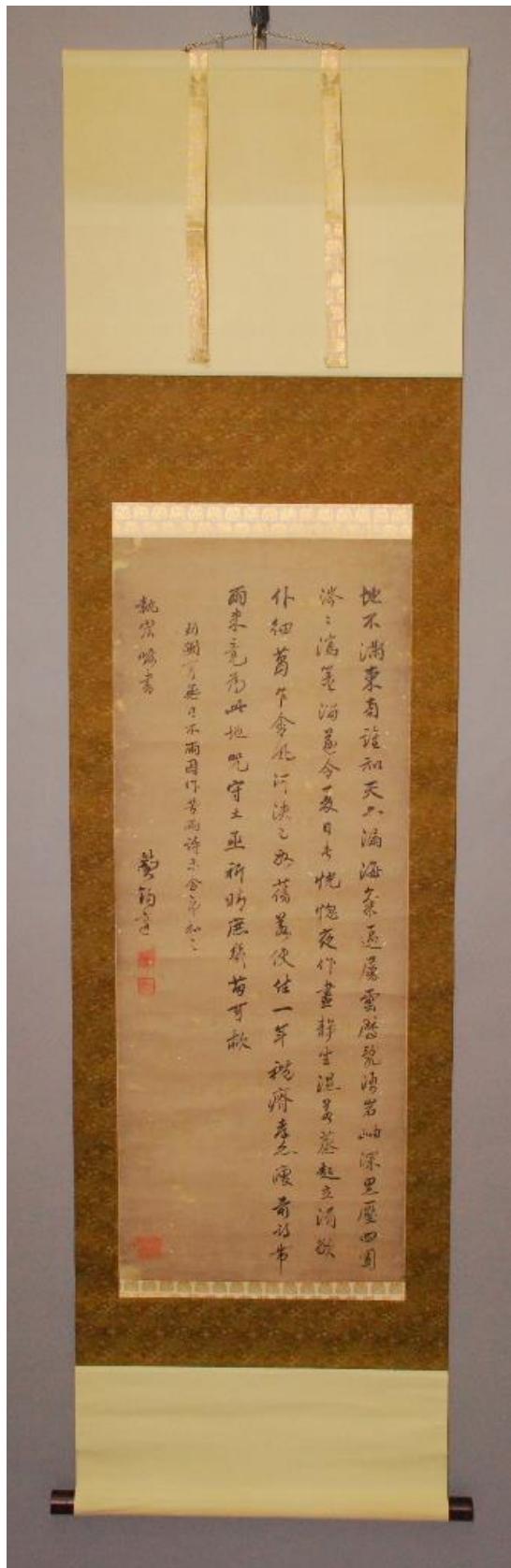
修復前 表具全図 赤外線写真

紫外線蛍光写真

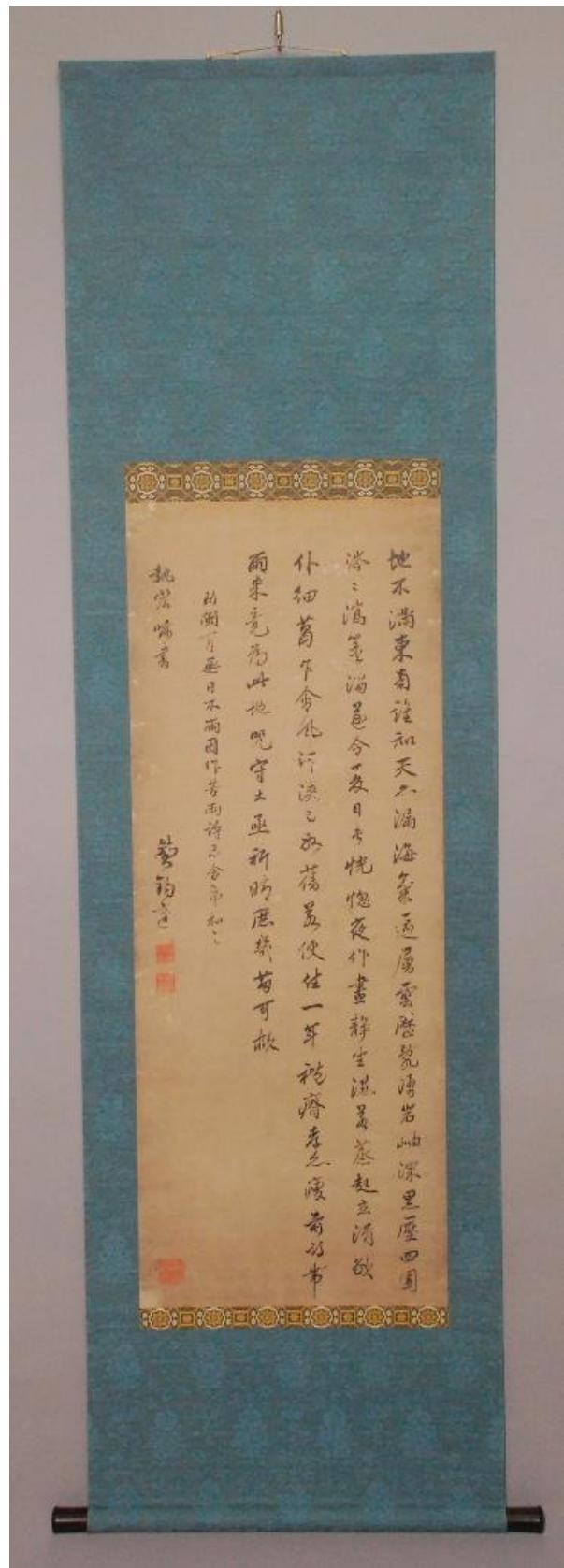


修復前 表具全図 紫外線蛍光写真

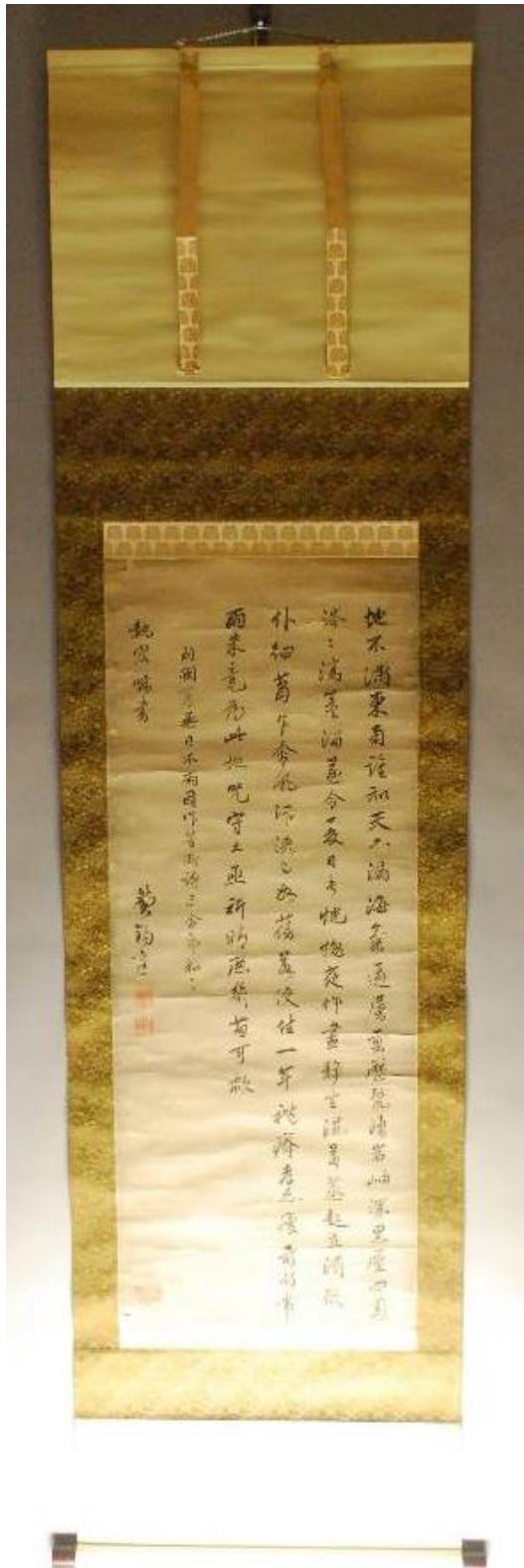
修復前 表具全図



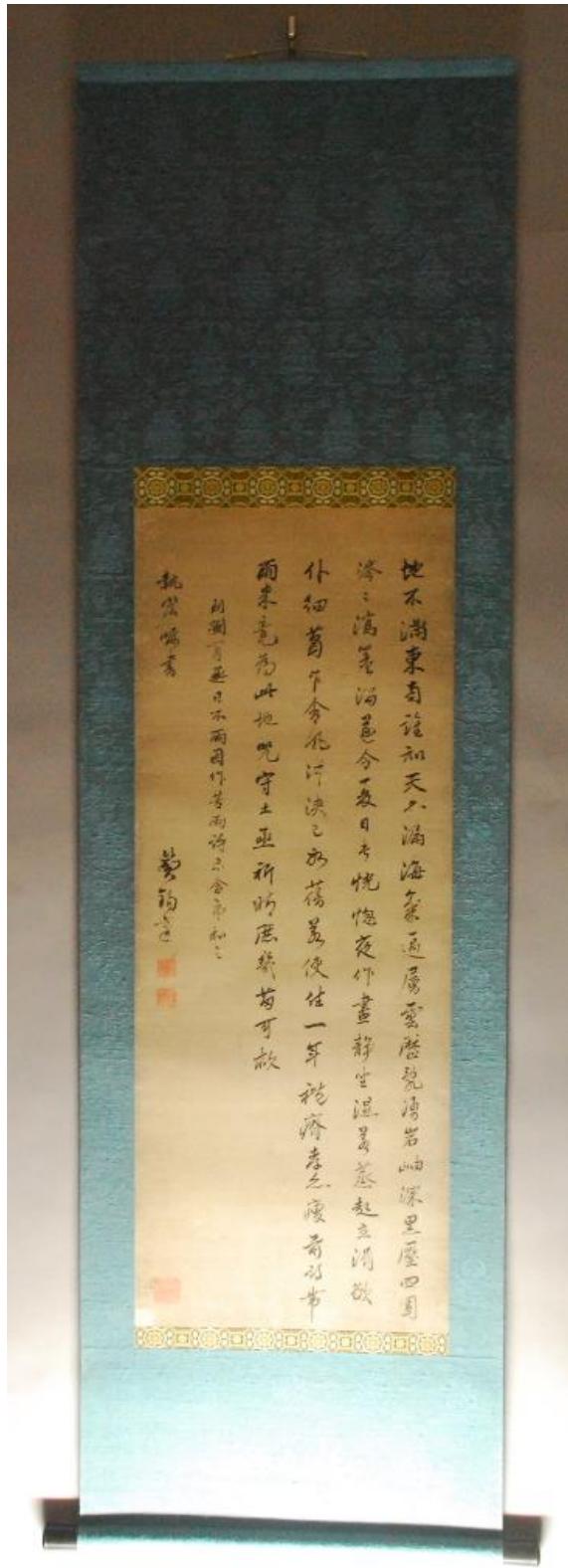
修復後 表具全図



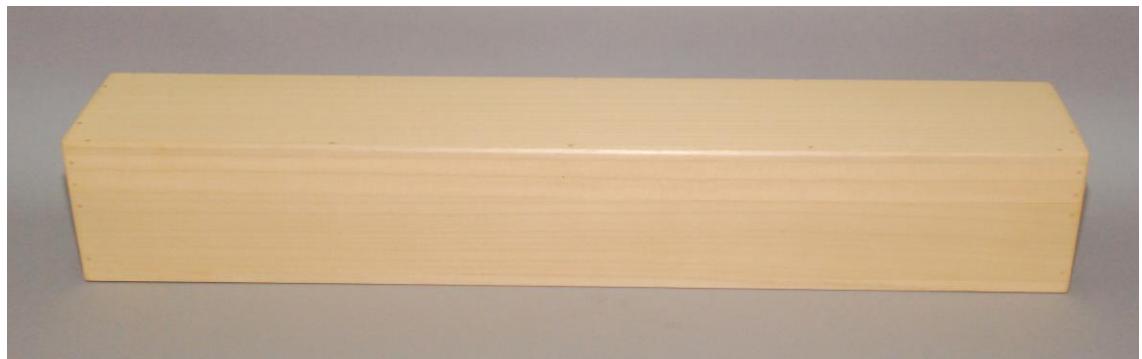
斜光線写真



修復前 表具全図 斜光線写真



修復後 表具全図 斜光線写真



修復後 桐太巻添軸桐印籠箱



修復後 桐太巻添軸芯に作品を巻いて収めた様子